

保育実習生のワーク・エンゲイジメントに関する研究 —JD-R モデルに基づくコーピング仮説の検証—

金子智昭 (埼玉純真短期大学)

キーワード：保育実習生，ワーク・エンゲイジメント，コーピング仮説

問題と目的

金子 (2017) は、保育実習生にワークエンゲイジメントの仕事資源－要求度 (JD-R) モデルを適用し、動機づけプロセスのモデルを検証した。本研究では、JD-R モデルのコーピング仮説を検証することを目的とする。コーピング仮説とは、仕事資源と個人資源は、特に仕事要求度が高い場合に、ワーク・エンゲイジメントの促進に大きく寄与するという仮説を意味する (Bakker et al., 2007)。この仮説に基づく、保育実習生が実習中に強い困難度 (仕事要求度) を認識した際、仕事資源としての指導教諭の指導スタイル及び個人資源としての保育職の適性感と保育者効力感は、ワーク・エンゲイジメントを促進すると予想される。

方 法

調査対象者及び手続き：埼玉県内の保育者養成系の女子短大生 258 名 (1 年生：132 名，2 年生：126 名) を対象に、2016 年 5 月から 9 月にかけて質問紙調査を行った。1 年生 (観察・参加実習 1 週間) と 2 年生 (指導実習 3 週間) 共に、教育実習事前・事後指導の講義を活用して行われた。事前と事後の計 2 回質問紙を配布し、回収した。

調査内容：実習前の質問紙は、(a) 保育職の適性感 (西山, 2007) の 2 項目、(b) 保育者効力感 (三木・桜井, 1998) の 10 項目である。実習後の質問紙は、(c) 指導教諭の指導スタイルの 12 項目 (自律性サポート，構造，関わり合いの各 4 項目)、(d) Shimazu et al (2008) を参考に作成した実習に対するワークエンゲイジメントの 9 項目、(e) 「幼稚園教育実習生困難測定尺度 (SDKT)」 (金子, 2013) の幼児指導，幼児との接触法，実習記録，に関する 17 項目。

結果と考察

学年別に、ワーク・エンゲイジメントを従属変

数，センタリング処理を行った 6 つの変数 (指導教諭の指導スタイル，保育職の適性感，保育者効力感，実習記録，幼児指導，幼児との接触法) を独立変数とする階層的重回帰分析を行った。

第 1 ステップに仕事資源もしくは個人資源の 1 変数と仕事要求度の 1 変数，第 2 ステップに各々の変数の交互作用項を投入して，回帰分析を行った。交互作用が有意であったのは，1 年生の保育職の適性感と幼児指導 ($\beta = .25, p < .05$)，1 年生の保育者効力感と幼児との接触法 ($\beta = .26, p < .05$) の 2 つであった。さらに，交互作用がみられた変数に関して，Aiken & West (1991) の手順に基づき，単純傾斜検定を行った。その結果，幼児指導の困難度が高い場合の保育職の適性感 ($\beta = .40, p < .01$) と幼児との接触法が高い場合の保育者効力感の影響 ($\beta = .26, p < .05$) が有意であった (Figure 1 参照)。

保育職の適性感と保育者効力感は、ワーク・エンゲイジメントや実習成果を高めるだけでなく (金子, 2017)，実習生が幼児との関わりに強い困難感を抱いた際のコーピングとして機能することが示唆された。ストレス・コーピングの観点から，養成校の教員が学生の適性感や効力感を向上させることの教育的意義が示された。

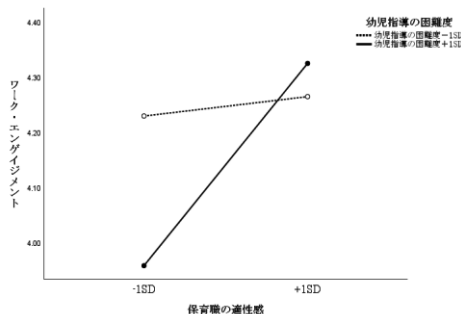


Figure 1 ワーク・エンゲイジメントに及ぼす保育職の適性感と幼児指導の困難度の交互作用